

資 料

日本オリンピック委員会における情報戦略活動

勝田 隆, 粟木 一博, 久木留 毅¹⁾,
河合 季信²⁾, 和久 貴洋³⁾, 中山 光行⁴⁾, 河野 一郎⁵⁾

The Systematic Information Strategy Activities of Japan Olympic Committee

KATSUTA Takashi, AWAKI Kazuhiro, KUKIDOME Takeshi, KAWAI Toshinobu, WAKU Takahiro, NAKAYAMA Mitsuyuki and KONO Ichiro

This study summarizes the outline of the systematic information strategy activities done by Japan Olympic Committee(JOC), which aims to achieve success in the international competitions such as the Olympics.

This study shows the things mentioned below:

- 1) JOC systematically tackles the improvement of international competitiveness, using the word "information strategy" officially.
- 2) JOC's core organization to tackle the improvement of international competitiveness is "information strategy section" which works as a substructure of the Information and Medical Science Special Committee.
- 3) "Information strategy section" is a section entrusted as a think-tank for JOC's improvement of international competitiveness.
- 4) The main roles of "information strategy section" should be to ① analyze the actual situation ② make and propose a plan ③ check and evaluate ④ provide information ⑤ support NF.

1. 緒 言

2000年9月、文部省（現文部科学省）は、わが国の今後のスポーツのあり方について「スポーツ振興基本計画」を策定し、その方向性と施策を明示した。¹⁾この中には、2010年までにオリンピックでのメダル獲得率を倍増させるという数値目標も示された。これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、その目標を達成するため、新たな具体的国際競技力向上戦略として2001年4月「JOC GOLD PLAN」を策定し発表した。その中でも特に「JOCとしての情報・戦略活動」を重視し、「世界でトップレベルの成績を残すには、高度な情報収集や分析を

中核とする情報・戦略活動（テクニカル活動）が鍵を握る時代となっている」という認識を示し、JOC独自の情報戦略活動を展開している。²⁾

本資料は、このJOCが展開している情報戦略活動の変遷を踏まえて概要を明示しようとする意図のもとに作成されたものである。

2. 情報戦略活動の必要性

JOCは、わが国唯一のオリンピック競技大会およびそれに準ずる国際総合競技大会への選手派遣事業と競技力向上事業、ならびにオリンピックムーブメント推進を目的とした活動を展開する団体である。³⁾競技力向上事業について

1) 専修大学 2) 筑波大学 3) 国立スポーツ科学センター 4) 神戸製鋼 5) 筑波大学

JOCの寄付行為には、「JOC選手強化に関わる業務は、国際総合競技大会日本代表選手の選定、選手の強化、コーチングスタッフの育成、調査研究、スポーツ情報収集、スポーツ施設の調査研究・設備拡充等である」と明記されている。⁴⁾ また、「JOC GOLD PLAN」では、JOCの競技力向上事業の展開に関して、「わが国の国際競技力のさらなる向上を継続的に図っていくためには、選手強化においてイニシアティブをとるJOCが、自らの役割を明確化し、現状分析をもとに長期強化計画を策定、実施していくことが求められている。特に現在では一競技団体ではカバーできない領域が広がってきているため、JOCのリーダーシップは不可欠であると考えられる」²⁾とJOCの役割が明示されている。具体的には、これは、加盟の「競技団体・選手・スタッフ・チーム」などに対して、「経済支援・オリンピック等の派遣などの機会提供・プログラム・情報・人材・物」などを提供し、「IOC・IF・AF」、さらには「社会環境」などに対して、具体的な働きかけをおこなうことである。²⁾

JOCの情報戦略活動は、この役割を効果的に推進するためのものとして位置づけられる。たとえば、JOCが長期総合強化計画を策定、実施する場合には、日本の国際競技力の現状を分析し、併せてライバル国や世界の情勢を正確に把握しなければならない。そのための、情報収集および分析を行うことやJOCがオリンピック等の国際総合競技大会へ選手やスタッフを派遣する場合、NFごとの派遣規模を決定しなければならず、それが客観的な指標に基づいて行われるため、それに資する情報や分析を担当することなどを挙げることができる。³⁾ 加えて、JOCは、選手強化等を目的とした公的資金を各NFに分配する役割を有しているが、その際も各NFの活動を、その将来性も含めて客観的に評価するための情報収集と分析、さらには、一競技団体では困難な情報収集活動や分析活動、あるいはプログラム提供（たとえばタレント発掘やエリート育成、キャリアサポートなど）を

行なう場合、競技団体側からの異なった情報や要請を収集しつつ、共通した、あるいは競技団体ごとに特化した内容を適切な時期を見極めつつプログラムに関する情報をフィードバックする作業といった役割を担うことも含まれている。

JOCの情報戦略活動は前述のような必要性において展開されているが、言うまでもなくその目的は、オリンピック等の国際総合競技大会においてメダル獲得数向上に資することである。

この目的を達成させるためのJOC情報戦略活動は、以下のように報告されている。³⁾

- ① 現状分析：JOCとして必要な強化関連情報の収集と分析、管理。
- ② 立案提案：JOC強化策の立案。
- ③ 点検評価：強化策・事業等の点検と評価、費用対効果等の分析
- ④ 情報提供：医科学の知見を強化現場に、強化現場の課題やニーズを医科学現場に提供。
- ⑤ NF支援：JOC各プロジェクト間の連携調整。一競技団体では困難な情報活動の支援。

3. JOC情報戦略活動の変遷

①情報戦略プロジェクト

2001年、JOCは、「JOC GOLD PLAN」の発表とともに、このプランの実現のために選手強化本部内に「情報・戦略専門委員会」を設置し、その下部組織に「情報・戦略プロジェクト」を設立した。⁶⁾ 図1は、設立年度の情報戦略プロジェクトの（組織上の）位置づけを表したものであるが、設立年度は、「情報・戦略プロジェクト」と表記されていたが、情報を戦略的に扱うという本プロジェクトの役割から「情報」と「戦略」を併記するのではなく、ひとつのことばとして用いるということと、「競技力向上事業に関するシンクタンクの機能として戦略情報を扱う」という意味から、2003年度より「情

報戦略プロジェクト」と表記を変えている。⁵⁾

表1および図2は、情報戦略プロジェクトの「位置づけ」や「活動の目的と内容」、そして情報戦略プロジェクトで「扱う情報」を表し、表2は情報戦略プロジェクトで扱うべき「情報のカテゴリー」をまとめたものである。これらのことから分かるように情報戦略プロジェクトの事業は、JOCの各プロジェクト全体の企画・立案などに対する調整を行う必要性から多岐にわたっているが、その中でも2003年3月より定期的に行われている「JOC情報戦略フォーラム」は、特筆しておく必要がある。このフォーラムは、JOC専任コーチ、各競技団体・情報戦略スタッフ、JOC各プロジェクトメンバーなど、日本の競技団体の現場関係者を対象として「JOCの情報戦略活動に関する共通理解の促

進を図るとともに、併せて各競技団体のスタッフとの連携を強化することを目的」として開催されるものである。このフォーラムの成果として他競技が有する情報や各種の方法論を自らの現場に生かそうとする競技団体や異なった種目のナショナルコーチを直接招聘し、その指導を受けようとする団体がこれまで以上に増加してきたこと、あるいは異なった競技種目間での合同練習や分析およびコーチング研修などが、自発的かつ頻繁に見られるようになってきたことが挙げられる。このような傾向は、「JOC GOLD PLAN」に明記された「特に現在では、一競技団体ではカバーできない領域が広がってきているため、JOCのリーダーシップは不可欠である」とするJOCの役割を具現化していることに他ならない。

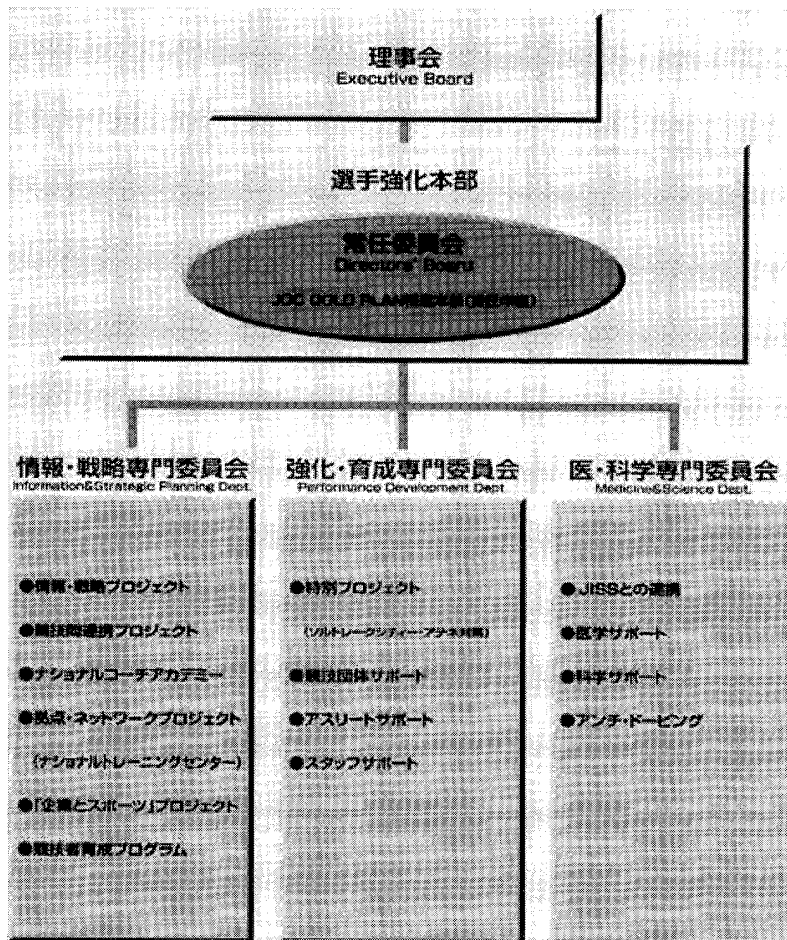


図1 JOC選手強化本部機構組織図

②情報チーム

2002年韓国釜山で行われたアジア競技大会において、JOCは、選手団本部内に初めて本格的な情報活動専門チーム（JOC情報チーム）を

組織化し、国内各競技連盟（NF）強化現場への情報支援はもとより、アテネ、そして北京オリンピックを視野に置いた情報活動を行った。この情報チームは、情報戦略プロジェクトを母体として組織化され、その活動内容は、「情報支援

■情報・戦略プロジェクトの位置づけ

1. 各専門委員会活動の主な役割

・JOCの強化事業は、強化・育成専門委員会が、強化方針および強化費配分を主体的に行い、それを具体的な裏打ち・事業展開として情報戦略専門委員会と医科学専門委員会が推進する。

2. 各プロジェクト活動の関連と位置付け

・JOCの各プロジェクトとしては、情報・戦略プロジェクトが全体の企画・立案などコーディネイトを行い、報告・資料作成などについても整合性を図る。

・重要施策である競技者育成とナショナルコーチアカデミーは、それぞれのプロジェクトが推進していく。

・医科学サポートについても、それぞれのプロジェクトが推進する。

これらのプロジェクトと競技間連携プロジェクトは、コンタクトを密にして事業、活動を展開する。

■情報・戦略プロジェクトの役割

1. 活動の目的

・2010年の五輪においてメダル倍増を実現するための情報戦略活動を明らかにする。

・JOC国際競技力向上のための情報戦略活動を行う。

・JOCの各プロジェクト全体の企画・立案などコーディネイトを行い、報告・資料作成などについての整合性を図る。

・わが国競技スポーツの強化活動における、組織的情報戦略活動の必要性を認知させ、それぞれの競技種目における情報戦略活動の組織化および具体化に向けての支援策を明らかにする。

2. 2002 / 2003年活動の主な内容

・JOCの各プロジェクト全体との活動との連携機能を充実し、JOC GOLD PLANの本格的推進の中核機能として具体的活動を行う。

・アテネ(夏季)およびトリノ(冬季)五輪におけるメダルの増加に資する情報戦略活動を具体的に明らかにする。

・JOCの各プロジェクト全体の中核的活動を具体的活動を行う

・釜山アジア競技大会での情報戦略グループを組織し、選手団に有益な情報戦略活動を展開する。

3. 情報・戦略プロジェクトで扱う「情報」

・一競技団体ではカバーできない領域に関する「情報」を扱う。具体的には、

1) 評価情報

①競技団体（種目）評価：「JOC競技団体（種目）評価基準」をもとに評価に必要な情報を収集

②競技団体（種目）ワールドランキング：競技団体（種目）間の成績比較を可能とする

③大会成績：日本選手・チーム/ライバル国/その他国際試合の成績等の情報

2) マネジメント情報

①試合の組み合わせ、場所、レフリー・ルール等、国際連盟における政治力およびメディアパワーがキーファクター

②関連領域との連携：自治体、スポーツ産業、スポーツメディア、企業

3) コーチング（コーチング&トレーニング）情報

現場情報の展開は早く専門外からそのノウハウを見出すのは難しい。例えば、記録競技で有効とされスピードトレーニング・コーチングの方法を球技系や格闘技系が独自で対応現場のものにしていくことは容易ではない。

4) 情報戦略（テクニカル）活動に関わる情報

①テクノロジー：ゲーム分析、プレイの分析に不可欠なテクノロジーの進歩は早く、関連機器、コンピューター、CG、デジタルデータ、情報システムを駆使する必要がある

②情報収集：インターネットの普及を背景とし、競技力向上に関する情報が飛躍的に増大

5) 医・科学情報

ME機器の発達、コンディショニング関連の知見の進歩、関連産業の進歩に比較して有能なスタッフは限られているため、1競技団体で行うサポートには限界がある

表1 情報戦略プロジェクトの活動

「JOC 情報・戦略プロジェクト2002年度そのあり方と主な活動」から抜粋

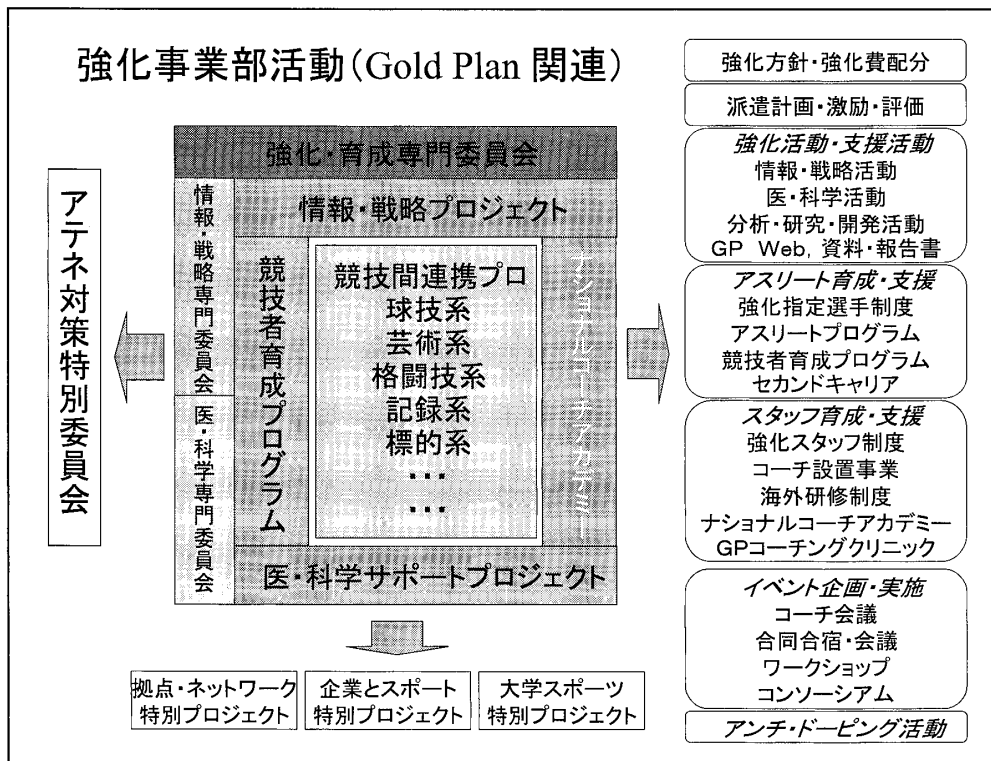


図2 Gold Plan における情報戦略プロジェクトの位置づけ

〔平成 14 年度コーチ会議報告書、日本オリンピック委員会、p53、2002 から抜粋〕

情報のカテゴリー	必要とされる主な情報
強化活動・支援活動のための情報	JOC および各競技における情報・戦略活動推進のための情報 各競技団体（種目）等の評価情報／強化育成活動・成績追跡調査情報 試合結果等の情報（日本選手&チーム／ライバル国／その他国際試合） JOC および各競技における医・科学活動向上のための情報 JOC および各競技における分析・研究・開発活動推進のための情報 GPE Web、資料・報告書等作成のための情報
アスリート育成・支援のための情報	JOC 強化指定選手制度充実のための情報 JOC 競技者育成プログラム充実のための情報 JOC アスリートプログラム構築に向けた情報 JOC セカンドキャリア・サポートプログラム構築に向けた情報
スタッフ育成・支援のための情報	専任コーチ制度充実のための情報 海外派遣制度充実のための情報 ナショナルコーチアカデミー構築に向けた情報 GPコーチングクリニック開催のための情報
イベント企画・実施のための情報	JOC コーチ会議の充実のための情報 JOC 合同合宿の充実のための情報 JOC 合同会議の充実のための情報 JOC ワークショップの開催と充実のための情報 コンソーシアムの充実のための情報
アンチ・ドーピング情報	アンチドーピング活動に関わる情報

表2 情報・戦略プロジェクトの扱うべき「情報のカテゴリー」

〔JOC 情報・戦略プロジェクト 2002 年度そのあり方と主な活動〕から抜粋

活動だけではなく、むしろメダル倍増に向けたJOCの国際競技力向上事業立案ために必要な情報戦略活動を重視して展開されていた」と報告されている。³⁾ また、「このような情報活動は、その規模やシステムは異なるが、アメリカやドイツといった国際大会における強豪国では、従来から試みられている取り組みであり、アメリカはソルトレイク五輪において選手村に『ハイ

パフォーマンス・センター・アンド・インフォメーション・テクノロジー』と呼ばれる情報ステーション(表3)を設置し、34名のスタッフによって情報支援活動を展開していた」のである。³⁾

釜山アジア大会においてJOC情報チームが展開した活動は表4のような内容であり、JOCはこれ以降、表5に示すような国際大会に国立

USOC ソルトレイク時の情報サポート USOC HIGH PERFORMANCE CENTER	
【機能】	
■選手やチームパフォーマンスをサポート/向上させるためのスポーツ科学サービス	
<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック映像をビデオテープにて提供 (事前にリクエストがあった場合) ・PCによる双方向テレビ ・分割画面での分析 ・ビデオステーションの提供 ・VHS-C palmcorders for checkout(?) 	
■スポーツ心理学サービスとカウンセリング	
<ul style="list-style-type: none"> ・USOC スポーツ心理学者による選手、コーチ、チームスタッフのためのスポーツ心理学サポート 	
■ High Performance Center において可能なコーチにとっての利便性	
<ul style="list-style-type: none"> ・コーチ用ワークルーム (電話、FAX、PC、プリンターを設置) ・ケーブルテレビと国際放送機器の設置 ・新聞/雑誌 (USA Today, 地元紙、SI, Time, その他) ・最新メディア情報、競技結果 ・他競技のコーチとのリラクスの時間と一人の時間 ・パークシティー近郊での軽食、飲料、食事 	
■ トレーニングサポート	
<ul style="list-style-type: none"> ・US 代表選手のための強化、コンディショニング ・オリンピックトレーニングセンタースタッフによるチームスタッフへのアドバイス 	
【スタッフ】	
■ USOC HIGH PERFORMANCE CENTER のスタッフ	
<ul style="list-style-type: none"> ・USOC オリンピックトレーニングセンター (コロラドスプリングス) ・USOC オリンピックトレーニングセンター (レークプラシッド) ・USOC スポーツ科学&コーチング部 	
【選手団構成】	
■ USOC Team USA Delegation	
<ul style="list-style-type: none"> ・USOC Officer and CEO (7) : 会長, 副会長, 他 ・Mission Staff (11) : 団長, 副団長, 他本部役員 ・Athletes' Service Staff (12) : 輸送, プレス, 記録, 選手サービス ・Headquarters & Operations Center (36) : 国際・法務・財務・ゲスト・チケット・村外対応 ・High Performance Centers & Information Technology (34人) : 情報戦略, テクノロジー, ビデオ ・Medical Staff (25) : ドクター, トレーナー ・Media Services (24) ・Team Processing : 用具, 写真, 安全 	

表3 ハイパフォーマンス・センター・アンド・インフォメーション・テクノロジーの概要

宮尾らJISSの情報をもとに勝田が作表

■客観的情報提供活動

①リザルトとリスタート

競技成績(リザルト)やスタートリストなど、競技結果を中心に、さまざまな大会情報を提供した。この情報は、すべての日本選手およびスタッフに大会期間中毎日配信された。これらの情報は、成績分析などにも活用され、大会記録として管理されている。

■情報関連サポートサービス

①情報ステーション設置

日本選手およびスタッフのために、選手村・日本選手棟の一室に会のような「情報ステーション」を設置した。情報ステーションでは下記に示すようなサポートを行った。

分析ルーム

- ・大会期間中のTV放映を録画して提供
- ・画像編集機器、IT機器の使用とノウハウ提供
- ・コーチ用分析ワークルーム提供

リビングルーム

- ・他競技のスタッフ・選手との交流の場
- ・競技結果、村内情報、大会情報などの提供
- ・メディア情報、日本の新聞・雑誌も
- ・村内トレーニング・リカバリー施設情報
- ・応援メッセージ

ミーティングルーム

- ・スタッフミーティングルーム提供(必要な機器も)

インターネットルーム

- ・インターネット機器使用サービス(メール、ファックスなど)
- ・栄養サポート情報、栄養相談窓口(インターネット)

②ニュースレター配信

大会期間中、日本選手団村内ニュース「ジャパン・タイムズ」を毎日発刊した。内容はメダリストの横顔や村内および大会のトピックなどが中心であった。

③ジャパン・スクエアとジャパンラウンジ

日本選手棟前の屋外スペースを「ジャパンスクエア」と名づけ、また日本選手棟内の洗濯機や共有テレビが置かれた4つの部屋を「ジャパンラウンジ」として、選手間の交流および情報共有の「場」とした。これらの共有スペースには、下記のような情報を掲示した。

ジャパンスクエア

- ・メダリスト一覧(顔写真も)
- ・ジャパンタイムズ(日本選手団内ニュース・情報チーム作成)
- ・日本の一般ニュース
- ・JAL機内で集められた応援メッセージ
- ・応援メッセージ
- ・その他

ジャパンラウンジ

- ・日本からの応援メッセージ
- ・食事および栄養に関するサポート情報
- ・ジャパンタイムズ
- ・選手団本部情報
- ・その他

エレベーター内

- ・誕生日情報
- ・本部事務局情報
- ・その他

■情報分析・評価

①評価分析活動(ランキングを含む)

各ナショナルチームや代表選手の現状を把握するために、世界ランキングおよびアジアランキングを作成した。

②追跡調査(シドニー→釜山→アテネ)

参加選手・チームのシドニーオリンピックから各主要国際大会、そして釜山アジア大会の成績などをデータベース化し、アテネオリンピックおよび北京オリンピックへ向けた情報へと変換した。

③重点分析(超重点種目、韓国、中国)

アテネオリンピックおよび北京オリンピックにおけるメダル有望種目、選手等を明らかにするための情報収集分析を行った。併せてアテネオリンピックアジア予選を展望する分析情報も収集した。

④レポート作成

- ◆中間総括：大会期間中に中間成績一覧および成績等の分析をまとめ選手団本部に提出した
- ◆大会総括：大会後成績一覧および結果等の分析をまとめ「総括」として選手団本部に提出した
- ◆報告書：大会後の報告書に情報チームとしての総括やデータを掲載した

表4 釜山アジア大会・情報チームの主な活動と役割

スポーツ科学センター (JISS) の協力を得て、その都度情報チームを編成し派遣している。

ちなみに表 6 は、アテネオリンピック日本選手団に編成された情報チームのミッションである。

③情報戦略部会

2004 年度 JOC 選手強化本部は、プロジェクト活動での取り組みを実質的な成果へとつなげる⁸⁾ため、JOC としての強化体制を図 3 のように改編し、選手強化本部内に情報・医・科学専門委員会を設置、その下部組織として「情報戦略部会」、「競技者育成部会」、「ナショナルコーチアカデミー部会」、「医学サポート部会」、「科

学サポート部会」の 5 つの部会を立ち上げた。これらの部会は、2001 年度から展開されていたプロジェクト活動が整理・統合されたものであり、これまでの「情報戦略プロジェクト」の活動は、情報戦略部会に移管された。

図 4 は、情報・医・科学専門委員会内部の組織と役割を表したものであるが、この年、強化本部長に就任した福田は、JOC 選手強化本部の基本方針のひとつに「情報戦略活動の充実」を掲げ、「JOC と各 NF による情報戦略活動の促進と活用を積極的に推進する事が、今後一層必要になるとの判断から、JOC では選手強化本部の中に情報戦略部会を設け、各 NF における情報戦略活動が求める情報の収集を行うとともに

表 5 JOC が JISS の協力を得て派遣した国際大会における情報チーム

開催年	国際大会	開催地	選手村内	選手村外
2002	冬季オリンピック	ソルトレークシティ (アメリカ)	1 人	0 人
2002	アジア競技大会	プサン (韓国)	9	0
2003	冬季ユニバーシアード大会	タルヴィジオ (イタリア)	2	0
2003	冬季アジア大会	青森 (日本)	2	4
2003	ユニバーシアード大会	テグ (韓国)	2	0
2004	オリンピック	アテネ (ギリシャ)	1	2

表 6 アテネオリンピック日本選手団に編成された情報チームのミッション

【日本選手団へフィードバック】

- ・各国、各競技団体のアテネにおける活動成果にかかわる背景について検証
- ・JOC および各競技団体の強化体制について課題の抽出
- ・北京オリンピックへ向けての課題の抽出
- ・日本選手団の戦いに関する経時的戦況・情報分析
- ・国内各競技団体強化スタッフへの現地情報発信

【NF 代表チーム・選手へのサポート】

- ・ミニ映像分析ステーションの設置 (4 月 4 日のフォーラムを受けて)
- ・簡易映像分析サポート (4 月 4 日のフォーラムを受けて)
- ・日本人選手の活躍に関する映像の放映
- ・選手村での日本での報道に関する映像提供
- ・映像収集サポート (できる範囲で)
- ・日本情報の提供 (J プロジェクト→アテネ情報チーム→選手・コーチ)

【アテネ後に向けて (情報戦略部会 & 各部会へフィードバック)】

- ・各国情報活動に関する調査・検証
- ・選手村内外の各国サポートシステムに関する調査・検証
- ・各国選手団構成に関する調査 (情報収集)
- ・日本人メダル獲得選手・コーチからのキーワード調査
- ・選手村内外等の映像収集

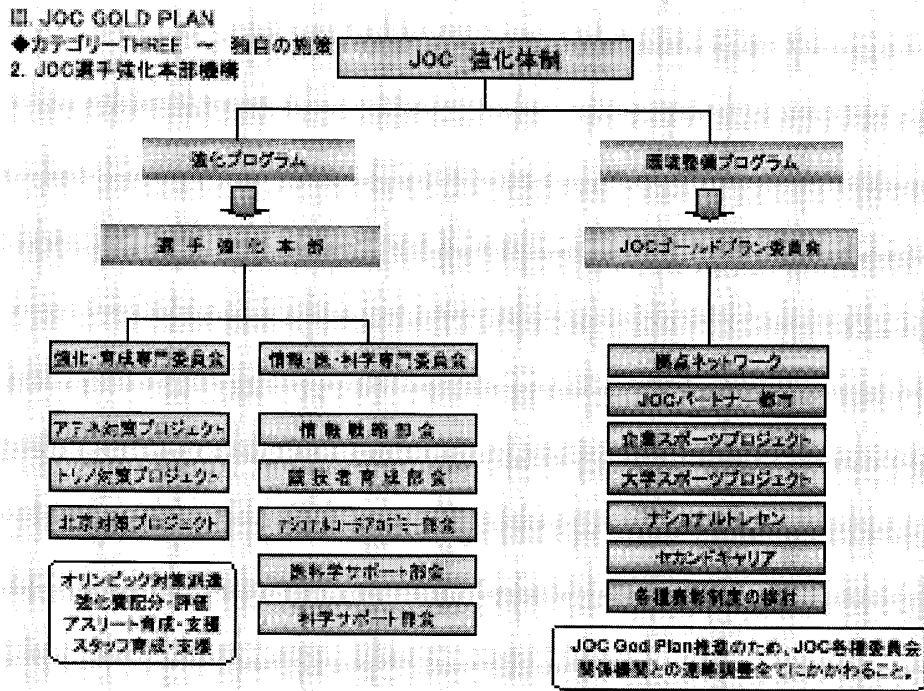


図3 JOC選手強化体制と情報戦略部会の位置づけ

〔平成15年度コーチ会議－アテネに向けて－〕、日本オリンピック委員会、p.8、2003より抜粋

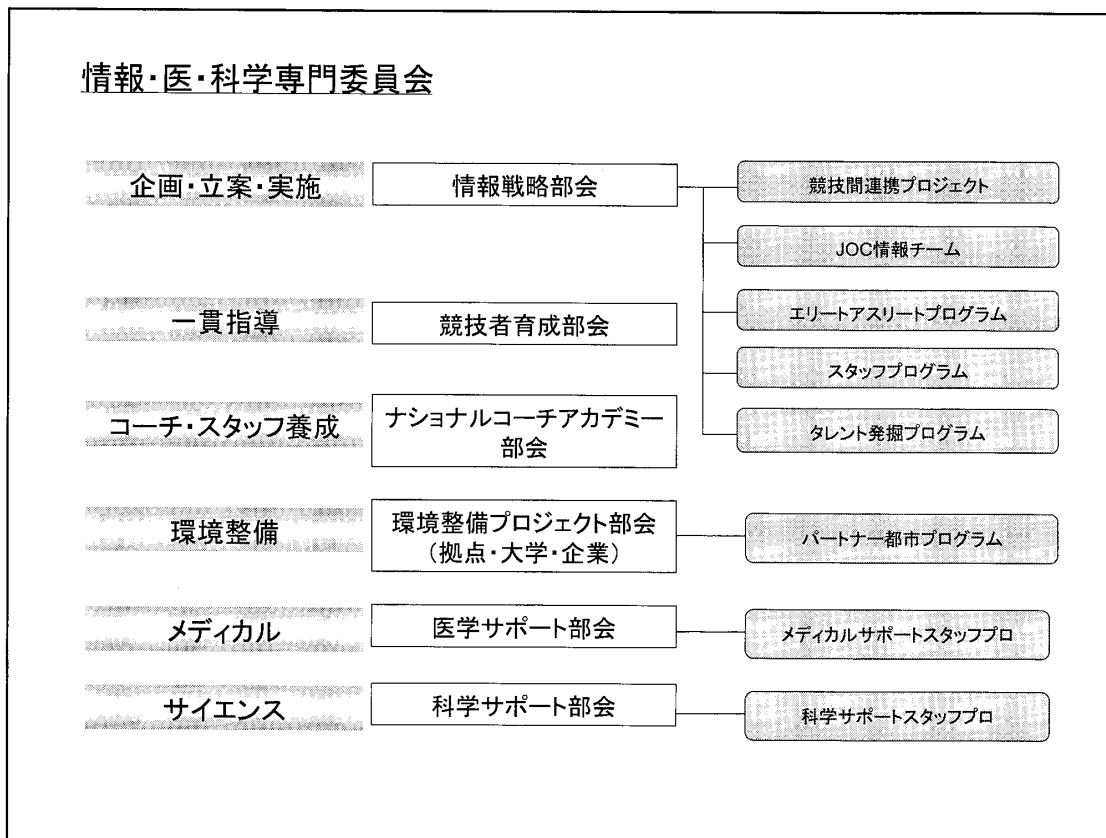


図4 情報・医・科学専門委員会内部の組織図

〔平成15年度コーチ会議－アテネに向けて－〕、日本オリンピック委員会、p.9、2003より抜粋

各NFの中にも情報戦略システムおよびスタッフの養成・設置を確立してもらうよう指導していくことが活動を充実につながるものと考えていると述べている。

この基本方針を受けて情報・医・科学専門委員会委員長に就任した河野は、「各NFだけの力では補えない部分を積極的にサポートする専門機関が情報・医・科学専門委員会であり、この委員会の企画、立案、実施を担当するのが情報戦略部会である」と述べ情報戦略部会の位置づけと役割を明らかにしている。

JOC2003 情報戦略部会の活動の目的は、「JOC ゴールドプランの舵取り役として、具体的には、2001年に開所した国立スポーツ科学センターと連携し、各競技団体の強化現場で活躍する、あるいは活躍した情報スタッフ（テクニカルスタッフ）の組織化により、競技団体の枠を越えて、各種情報収集を行うと共に、各競技団体での情報スタッフ（テクニカルスタッフ）養成のための情報交換会（テクニカルフォーラム）等を開催する」ことである。情報戦略部会の活動は、「①アテネオリンピックにおいてメダル獲得のために必要な、直接的かつ具体的な活動、②トリノオリンピックに向けた競技力向上のために必要な活動、③情報・医科学専門委員会の他部会と連携し、委員会の企画・立案・実施活動、④国際総合競技大会でのサポート活動、⑤地域におけるタレント発掘に関する調査研究」などであり、さらに、今後の活動としては、「①各競技団体のテクニカルスタッフの養成、②アテネオリンピックにおける情報戦略活動、③トリノオリンピックに向けた各種情報収集（アテネ以降）、④地域におけるタレント発掘モデルの確立」などとなっている。

4. まとめ

わが国の今後のスポーツのあり方について明示した「スポーツ振興基本計画」の中に謳われたオリンピックでのメダル獲得率を倍増させる

という数値目標を、JOCとして達成するため、JOCは具体的国際競技力向上戦略として2001年4月「JOC GOLD PLAN」を策定し発表した。当時のJOC強化本部長松永は、「(メダル獲得率を倍増という)この政策目標について、全競技団体とJOCが協力し、その責務を全うしなければならない」とし、この目標達成のための「計画実現に向けて『JOC GOLD PLAN』を立ち上げた」と述べている。¹⁰⁾

この「JOC GOLD PLAN」の推進あたってJOCは選手強化本部内に「情報・戦略委員会(2001年度～2002年)」を設置し、プロジェクト施策をスタートさせた。「情報・戦略プロジェクト」は、これらのプロジェクトのひとつとして組織化されたが、JOC GOLD PLANの中核的役割を担って発足した。⁹⁾

情報・戦略専門委員会は、その後2003年度から「情報・医・科学専門委員会」に改組され、それにともない「情報・戦略プロジェクト」も「情報戦略部会」へとその活動を移管した。

以上が、本調査により明らかとなった、JOCが国際競技力向上のために、公に「情報戦略」という言葉を用いて組織的に取り組んでいる活動である。

これまで述べてきたことから明らかなように、JOCとしての国際競技力向上に関わる活動の中核的な存在⁹⁾であり、かつシンクタンク的な役割を託されている部署は、現在「情報戦略部会」である。⁸⁾⁹⁾ 情報・医・科学専門委員会委員長の河野は、「情報戦略部会は、情報・医・科学専門委員会全体の企画・立案・実施というプロジェクト・マネージャー的な役割をすること」⁸⁾と述べている。

以上のようなことから、JOCとしての情報戦略活動に関しては、現在「情報戦略部会」の活動が代表的であると考えられる。

情報戦略部会長の勝田は、JOCとしての情報戦略活動のあり方を、情報戦略プロジェクトおよび情報戦略部会での活動を通して表7のようにまとめ発表しているが、この内容は、現在の

JOCにおける情報戦略活動のひとつのモデルとして検討されるに値するものであると言えるだろう。

台において見られる「組織的情報戦略活動」について、表8に示すような事柄を明らかにする研究を行っている。本資料は、この研究の一貫として位置づけられるものである。

5. 本資料の位置付け

勝田と栗木は、高度化した競技スポーツの舞

表7 JOCの情報戦略活動

- ◆現状分析：JOCとして必要な強化関連情報の収集と分析、管理。
- ◆立案提案：JOC強化策の立案。
- ◆点検評価：強化策・事業等の点検と評価。費用対効果等の分析。
- ◆情報提供：医科学の知見を強化現場に。強化現場の課題やニーズを医科学現場に。
- ◆NF支援：JOC各プロジェクト間の連携調整。一競技団体では困難な情報活動の支援。

表8 組織的情報戦略活動に関する研究の概要

- ①競技スポーツにける「組織的情報戦略活動」の必要性を明確にした上で定義化する。
- ②強化現場のコーチングと一体となった「組織的情報戦略活動」の実際とその機能とを、競技特異性に分けて明らかにし、それぞれモデル化したうえで、そのモデルの有効性について事例的検証を行なう。
- ③国内競技団体(NF)等の「組織的情報戦略活動」の実際とその機能について明らかにし、モデル化したうえで、そのモデルの有効性について事例的検証を行なう。
- ④各オリンピック委員会(NOC)等の国家な「組織的情報戦略活動」の実際とその機能について明らかにし、モデル化したうえで、そのモデルの有効性について事例的な検証を行なう。

参考・引用文献

- 1) 「スポーツ振興基本計画」。文部省。2000
- 2) 「JOC GOLD PLAN」。日本オリンピック委員会。2001
- 3) 勝田隆。「釜山からアテネへ今後の強化策について－JOC情報戦略からの提言」。文部科学省。p45-52。2003。
- 4) 「寄付行為」。日本オリンピック委員会
- 5) 「JOC GOLD PLAN ANNUAL REPORT 2002」。日本オリンピック委員会。2002
- 6) 「成功の鍵を握るメ情報モとメ戦略モ」。OLYMPIAN。日本オリンピック委員会。ベースボールマガジン社。No.117。2001
- 7) 「第14回アジア競技大会(2002/釜山)報告書」。日本オリンピック委員会。2002

- 8) 「平成15年度コーチ会議－アテネに向けて－」。日本オリンピック委員会。p 55。2002
- 9) 「JOC GOLD PLAN ANNUAL REPORT 2003」。日本オリンピック委員会。2003
- 10) 「平成14年度コーチ会議報告書」。日本オリンピック委員会。2002

(平成17年1月25日受付,平成17年2月1日受理)